









国際派日本人養成講座

国柄探訪

平成24年10月7日号

中国の仕掛ける心理戦に どう備えるか

武力侵略の前から、日本国民の抵抗 意思を挫く心理宣伝が始まっている。

1. 中国の仕掛ける「心理戦」

尖閣諸島をめぐる日中間の緊張で、最近、「部 識者から「日中両国で島の帰属や共同開発など、 平和的に話し合っている」という主張が聞か せてくる。平和と友好を重んずる日本人には、いかに も心地よく聞かせる主張である。これに関して、 公安調査庁第2部長の菅沼光弘氏はこう指摘する。 中国側が仕掛けた「情報戦」「心理戦」の一環だ ろう。日本固有の領土なのに、どうして中国と交渉 のテーブルに着く必要があるのか。動じてはならな い。毅然として「尖閣は絶対に守る」と言っていれ ばいい。[1]

2. 「精神」心がくじけた ときに、腕力があつたとて 何の役に立つでしょうか

心理戦への備えを強く説いているのが、スイス 政府が全家庭に配布した「民間防衛」である。同書 はスイスが他国からの侵略を受けた際に、国民とし てどう行動すべきかを詳細に説いた本である。 消防・救済活動のみならず、核・生物・化学兵器か らの身の守り方、さらには占領された後のレジスタ ンス活動まで説いている。 その中でも、心理戦の重要性について「まえが き」でこう説いている。 一方、戦争は武器だけで行われるものではなく、 実施のずっと以前から行われる陰謀で周到な宣伝 は、国民の抵抗意思をくじくことができます。 精神心がくじけたときに、腕力があつたとて何 の役に立つでしょうか。反対に、国民が、決意を 固めた指導者のまわりに団結したとき、だが彼ら を屈服させることができましようか。[2, p6]

4. 「美しい仮面をかぶつ た誘惑のこぼれ」

このような「国民の意思」を、「作戦実施のずつ と以前から行われる陰謀で周到な宣伝」で挫くこ とが心理戦の本質である。これを「民間防衛」は次のよ うに説明する。 軍事作戦を開始するずっと前の平和な時代から、 敵は、あらゆる手段を使ってわれわれの抵抗力を弱 める努力をするだろう。 敵の使う手段としては、陰險巧妙な宣伝でわれわ れの心の中に疑念を植えつける、われわれの分裂を はかる、彼らのイデオロギーでわれわれの心をころ とえようとする、などがある。新聞、ラジオ、テ レビはわれわれの強固な志操を崩すことができる。 [2, p145]

5. 「ダブル・スタンダード (二重基準)」

わが国でも、そっくりの心理戦が行われてき た。たとえば、「核兵器反対」「戦争反対」、最近 では「原発反対」。もちろん、純粋な思想信条とし てこれらを主張している人々がほとんどであろう。 しかし、その人々の純粋な心情を利用して、わが国 の抵抗力、抵抗意思を弱めようとするのが心理戦の 本質である。それは「ダブル・スタンダード(二重 基準)」になっているか、とチェックすることで ある。たとえば、「核兵器反対」を唱える活動家たち は、アメリカの核兵器だけでなく、ソ連や中国の 核兵器にも反対していたらどうか。広島の水原禁 大会で、「アメリカの核兵器だけでなく、ソ連の 核兵器にも反対する必要がある」と述べた学生が、 壇上から引きずり下ろされたという事例がある。 同様に、「ベトナム戦争反対」とデモをしていた 人々は、中国によるベトナム侵攻や、ソ連によるア フガン侵攻にもデモをしたらどうか。

6. 「各人の判断力完全な 責任感を養う」

しかし、このような心理戦に抵抗するために、 政府が言論統制したりしてはならない、と「民間 防衛」はたしなめる。思想言論の自由を守ること は、スイスや我が国のような自由主義社会の本質だ からだ。 わが国は、自由とキリスト教の上に立ってい る。この両者は、ともに、イデオロギーでもなく、 教義の体系でもない。われわれは、入り乱れる精神 的闘争の中にあつて、われわれの、最上の価値を持 つ財産を、見失ってはならない。 したがって、スイスで言う心理的国土防衛とは、 教義の訓練ではなく、各人の判断力と完全な責任感 を養うことである。[2, p163]

8. 「あらゆる危険に備え る平和愛好国と、いかなる 危険にも目もくれない平和 愛好国！」

心理戦に関してだけでも、これだけの事を述べた 本をスイス政府は全家庭に配っているのである。 心理戦に関しては政府も国民も無知なわが国とは まったく違う。 スイスも日本も半世紀以上も戦争をしていない 平和国であるが、この両国を比較して、「民間



中国江蘇省蘇州で行われた反日デモ

防衛」の記者後書きでは次のように述べている。 しかし、一方の国では平時から、戦時に備えて2 年間分位の食料、燃料等必要物資を貯え、24時間 以内に最新鋭の武器を備えた約50万人の兵力の 動員が可能という体制で平和と民主主義を守り、 他方の国では、軍事力を持つことは民主主義に反す るというような議論が堂々となされているのは、ま ことに奇妙といわざるをえない。 あらゆる危険に備える平和愛好国と、いかなる 危険にも目もくれない平和愛好国! [1, p319]

スイスが周囲をドイツ、フランス、イタリアな ど、同質の近代的民主主義国家群に囲まれているの に、日本が中国、北朝鮮、韓国、ロシアと異質な 前近代的国家群に囲まれていることを考えれば、 両国の違いは、さらに際立ってくる。 わが国の独立と自由を守るためには、まずは国民 一人ひとりが心理戦に感化されない自立した思想 と精神を育てるといふ民間防衛から始めるべきだ ろう。 (文責 伊勢雅臣)

リンク ■ [a] JOG(095) スイス、孤高の戦い 中立は口先だけでは守れなかった。 http://www2s.biglobe.ne.jp/~nippon/jog095.html [b] JOG(040) 真の反核とは 「反核」を叫び、「制裁」を唱えているだけでは、世界はちっとも変わりません。 http://www2s.biglobe.ne.jp/~257EniJppon/jog040.html [c] JOG(605) 自由は日本の政治伝統 国民の自由を守る政治的伝統が、我が国の経済と文化を育ててきた。 http://www2s.biglobe.ne.jp/~257EniJppon/jog0605.html

【参考文献】(一) ZAKZAK 「日中尖閣衝突で米軍 参戦」『日米安保は発動されない』の指摘も、平成24年10月5日。(二) スイス政府「民間 防衛」、原書房、平成15年



佐藤守・元空将

3. 「みずからを守った 小国は、その国家的存在を 保つ事ができたのである」

「国民が、決意を固めた指導者のまわりに 団結したとき、だが彼らを屈服させることができ ますか」という一節は、スイスの第2次大戦中 の苦闘を知れば、単なる「精神主義」ではないこと が分かる。 当時、ドイツがフランスを降伏させ、イタリアも ドイツ側に立つと、スイスは枢軸国に囲まれた。ド イツ国内では、「一気にスイスを占領して、イタリア との通商路を確保すべきだ」という声が強まった。

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための

「核武装反対 それはスイスにふさわしくない。」「 軍事費削減のためのイニシアティブをこれらに要 する巨額の金を、すべてわれわれは、大衆のための



日伯友好病院「入院診談記」(1)

サンパウロ 榊上 藤(魔人)

常日頃から「医者」として... 入院診談記(1)...

私も帰化ブラジル人(2)

イタベチニカ 私賀 希耕

戦後移住者には日本を... 私も帰化ブラジル人(2)...

回想

サンパウロ 梅田 寛一

あ、鶴沼の山が見え... 回想...



ノルデヴィーガリーの旅

サンパウロ 永井 竜雄

去る8月27日、義弟... ノルデヴィーガリーの旅...

コンパードレの家族

ポトウランガ 佐藤太一郎

1950年頃、私の隣... コンパードレの家族...

乳鉢

サンパウロ 鎌谷 曜

「あなた、乳鉢って知っ... 乳鉢...

私のトイレ哲学

サンパウロ 清水 秀策

今回は下の語で誠に恐... 私のトイレ哲学...

張って深呼吸を... 投稿者におねがい

投稿者におねがい... 投稿者におねがい

投稿者におねがい... 投稿者におねがい

投稿者におねがい... 投稿者におねがい















